



出張版



ドボジョのイマドキ

昨今の建設業界にて多くの女性技術者、通称「ドボジョ」が活躍しています。そんなドボジョの魅力を発信するべく、インタビュー企画を立ち上げました。

この度インタビューに応じてくださったのは、みらい建設工業(株)関谷桃子さんです。採用から半年が経った関谷さんに、仕事に対する想いを語って頂きました。



——大学で土木を学ぼうと思ったきっかけはなんですか？

元々大学の付属校に通っており、数学と物理が得意であったのと、就職率も加味して大学の専攻を希望しました。

——建設会社に入社する前と入社した後の印象は変わりましたか？

入社前、大学では周りの女性の友達も建設会社に就職を希望していた人が多かったので違和感はありませんでしたが、建設会社に内定をもらったことを大学の友達以外に言うと驚かれることが多かったです。やはり建設業界に対する「男性社会」の印象は強いんだなあと思いました。

入社後は会社でたった一人の女性技術者ということもあり、「男性社会」であるという印象はぬぐえませんでしたし男女の体格差など違いを感じていました。しかし周りの方々のフォローが手厚く、男女差に悩むこともなく女性でも受け入れられる職場だと感じています。

——3K（危険・汚い・キツイ）と思われがちな工事現場ですが、実際業務に携わってみていかがでしょうか？

入社前は3Kのイメージが大きかったです。ニュースにたびたび出てくる死亡事故や普段



Profile 関谷 桃子（せきや ももこ）
1993年3月 東京都墨田区生まれ。中央大学理工学部を卒業後、みらい建設工業(株)へ入社。現在までに「平成26年度新月島運河（勝どき五丁目）内部護岸建設工事」「八戸港ハ太郎・河原木地区航路泊地（埋没）浚渫工事」に携わる。



街中でみる工事現場で泥だらけになりながら仕事をしている風景、重い物を担いでいる場面を見たりと果たして女性が入ってもいい現場なのだろうかと少し不安でした。

入社して現場に配属されましたが、確かに大きな重機や重量のある材料を扱ったりと危険な作業のように見えます。しかし、大きな事故が起こらないよう現場の決まり事をしっかり守り、毎朝KY活動を行うことで事故が起こらないよう全員で努力しているということが分かりました。また、作業員の方々は毎日作業終わりに現場を片付けて帰りますし、作業中も整理整頓を心がけていますので安全性と清潔さには十分配慮されていると思います。





出張版



ドボジョのイマドキ

——わたしが初めて工事現場をみたときも綺麗に整頓されていて驚きました。作業員の方の努力がしっかりと伝わってきました。

見ただけでは分からないことも入社して現場に関わるようになってから理解することが出来ました。

——今まで経験した工事での失敗・成功について教えてください。

月島の内部護岸の工事で鋼管を215本打ったのですが、打ち止めの指示をしりまっすぐ打っているかの確認をしたりと作業員の方と協力して施工しました。鋼管の打ち止めをレベルで見えて指示し、何本かは順調だったのですが途中で高さの管理を間違ってしまう、やり直すことになってしまいました。とても落ち込みましたが周りの方々のフォローもあって助かりました。すべて打ち終わった後に上から確認し鋼管がまっすぐに並んでいるのをみて感動しました。それと同時に大きな達成感を得ることが出来ました。

——失敗と成功を体験した関谷さんですが、今後やってみたい仕事はありますか？

八戸港浚渫工事に携わり、台風で中止になったり他航行船舶に気をつけたりと海を相手に仕事をする大変さを感じました。その反面やりがいを感じることもあり、これから様々な工事を体験するかと思いますが、海に関わる仕事をしてみたいと思っています。

当初、船に乗ることがニガテで船酔いしていたのですが、海上の作業を続けていくうちに

「楽しいじゃん！」と思い始めました。今では高い波を楽しむまでになりました（笑）

——いつか一緒に仕事ができることを楽しみにしています！（笑）

——最後になりますが、未来の女性技術者へメッセージをお願いします。

「男性社会」「3K」など女性に対してあまり良い印象がない建設業界ですが、いざ足を踏み入れると、周囲からのフォローを含め女性が働く環境が充実しており、思ったより働きやすいと感じています。また、自分の作った物が見えて成果が分かるので面白いですしやりがいも感じる事が出来る業界だと思います。

最近では女性を起用する建設会社も増えてきており、これから更に女性にとって働きやすい環境になってくると思います。

すこしでも「やってみたい」と思っている方はチャレンジしてみる価値は十分あると思います。

——力強いメッセージをいただきました。ありがとうございます。これからも関谷さんの活躍を期待しています。お互い頑張りましょう！



「マイペースな性格」と周囲から称されるらしく本人もご承知のようす。大の猫好きで猫カフェにもしばしば訪れているようです。しかし「一番カワイイのは実家のネコ！」と明るく話してくれました。

